

09 国を越えて子育てを支え合う（外国人）

皆さん、いかがお過（す）ぎですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、副島淳がお届けします。タイトルは「国を越えて子育てを支え合う」です。

5

博多区吉塚商店街のアジアンプラザでは、ベトナムやネパールなど外国にルーツのある保護者と、日本語教師や地域住民、商店街コムニティなどが協力して、さまざまな国の子どもや保護者が学び合える居場所づくりが行われています。主催しているのは、ベトナム出身のブイ・ティ・トゥ・サンゴさんが、2023年に仲間と立ち上げた一般社団法人「福岡国際市民協会」です。

10

サンゴさんは留学を機に来日し、2011年から福岡市に住んでいます。卒業後は短期大学の教員になり、カナダ人のパートナーと共に2人の子どもを育てながら働いてきました。

15

団体を設立したのは、子育て中の外国人からの相談がきっかけでした。サンゴさんは言います。

「留学生は学校から、働いている人には職場からの支援がありますが、一緒に来日した家族は日本語や生活に必要な情報も分からぬ上に、家族以外に頼れる人がいなくて困ること

20

がとても多いんです。特に子育ての悩みは深刻です。以前、ベトナム人のコミュニティで通訳ボランティアをしていたとき、さまざまな相談を受けました。自分だけでは限界を感じ、みんなで力を合わせて解決できる場をつくろうと思つたんです。」

30 子ども食堂からスタートし、徐々に活動の幅を広げ、子どもたちが共に地域で学び合う場もつくりました。週3回、一緒に宿題をしたり、本を読んだりしています。得意な教科を教え合い、高学年が低学年に教える姿も見られます。子どもたちだけでなく、大人もサポートをしています。

35 また、保護者向けの日本語講座や、子どもの教育に必要な情報を学ぶ勉強会もあります。

定期的に交流イベントも開催し、世界の行事紹介、音楽やダンス、料理体験などをしています。旧正月には獅子舞と一緒に商店街をパレードし、多くの人でにぎわいました。

サンゴさんは、「国籍に関係なく共に学び、楽しく交流しながら、子どもたちを育てていきたい」と話します。

これからも、外国にルーツのある保護者と地域住民が互いを尊重し合いしながら、国を越えて子どもの成長を支えていく地域でありたいですね。

45